

ふれあいの祭典 兵庫短歌祭



島田幸典氏の講評をきく歌びとたち。
左から、山田恵子、奥田、尾崎、島田、山田麦、矢野、佐藤の名氏

パて 文部科学大臣賞
スに 種田 淑子さん
キル 仲宗根 琉奈さん
路一 特別支援学校
姫高 二年

ジュニア部門兵庫県知事賞
種田 淑子さん (明石市)
仲宗根 琉奈さん (兵庫県立上野ヶ原
特別支援学校
高等部二年)



第194号

題字 出口 草露
発行者 〒679-5322 佐用郡佐用町上石井685 安藤直彦方
兵庫県歌人クラブ
会計 〒657-0043 神戸市灘区大石東町4-3-1-305 福島妙子
振替 01110-5-6903
印刷所 ㈱ 甲南堂印刷

ふれあいの祭典・県民文化普及事業「兵庫短歌祭」が11月14日(土)午後1時から、姫路キヤスパホールで開催された。入賞者の表彰式、作品の講評に続き、結社対抗「歌合せ」が行われた。

あいにくの小雨模様の天候に、世界遺産の姫路城はいささか霞んでいたが、中高生の多数の参加者や各結社からの会員も集まった。司会は生田よしえ、浮田伸子各氏。

まず、釣雅典姫路市観光交流局長の開会の挨拶から始まった。「何よりも姫路の地で開催されるのがうれしい。短歌祭も27回目、応募作品の表彰後、結社対抗歌合せという個性豊かな交流の場を持たれることをたのしみに行いたい」と述べられた。

続いて是川哲秀県芸術文化協会専務理事が「県下各地で開催することで皆さんに身近な場所



受賞される種田淑子さん

な場所でも芸術文化を楽しんでもらう機会を提供させていただいている。応募数の多さからも伝統文化である短歌の関心の高さがうかがえる。今後も芸術文化の力を盛り上げていきたい」と話された。

次に安藤直彦歌人クラブ代表が「兵庫県出身の民俗学者である柳田國男が、短歌について日本のおもやいのもの、つまり共有財産という位置づけで話されている。このたびも十三歳から九十歳代までの幅広い年代の方がたが短歌というひとつのものに取り組んでくれた。千三百年以上前の先人たちが生み出した同じ形のものをも今も作ってきていることは、世界でも稀な日本の姿だと感じる。私たちは今後若い世代にこれをつなげ共有していきたい。」と述べられた。

平成27年の短歌祭応募作品数は、一般の部387首、ジュニアの部527首。一般の部入賞者14名、入選6名、佳作20名。ジュニアの部入賞者16名、入選9名、佳作35名が受賞し表彰状と副賞が授与された。ジュニアの部では、受賞者が自分の歌を大きな声で披露し、拍手や時には声援を受けた。この素晴らしい体験を生かして、それぞれの中高

生たちが今後の歩みの中に短歌を取り入れる生き方をしてくれることが期待される。講評は一般の部を高井忠明、内海永子、足立勝蔵、藤本則子各氏。ジュニアの部は中川昭氏が担当。

休憩の後、結社対抗歌合せが行われた。司会尾崎まゆみ氏、判司島田幸典氏。講師西橋美保氏。花組、月組にわかれ、歴代の姫路城主の頭文字から「黒・田、池・本・松・酒」をとり、歌の題とし競い合った。(詳しい内容は別記) 前田昭子副代表の開会の辞の後、午後四時三十分終了。参加者180名。



左から、生田(司会)、安藤、神保原、釣、是川の各氏

(池本登代子)

兵庫短歌祭「歌合せ」記 來田康男



左から、判司：島田氏、花組：山田麦、矢野、佐藤、真砂、青田、森垣の各氏

2015年兵庫短歌祭「歌合せ」は、判司に、歌集『no news』で現代歌人協会賞受賞、西日本の歌人を束ねる現代歌人集合理事で「八雁」選者の島田幸典氏をお招きして行われた。題は開催地のシンプルの姫路城(世界遺産)の歴代城主、黒田・池田・本多・松平・酒井の姓から採った黒・田・池・本・松・酒の六文字であった。

歌びとには「文学圏」の編集人であるベテランの歌人青田綾子氏、現代短歌評論賞受賞で、兵庫県歌人クラブ副代表でもある小林幹也氏(玲瓏)、「花鏡」徳島支部長の奥田洋子氏を始め、兵庫短歌賞、同新人賞、専門誌や結社の賞を受賞したり、歌集を刊行されたりと並び、壇上から放射される多種多様なオーラの輝きに圧倒された。

読師、すなわち司会進行を務める尾崎まゆみ氏(玲瓏)は、神戸新聞歌壇の選者でもあり、大勢の人々の作品を見る立場から、各歌びとや両組に配慮を見せつつ、巧みに進めていかれた。

講師、すなわち歌の朗詠を行うのは西橋美保氏(短歌人)である。落ち着いた、明瞭な声で、それぞれの歌びとの渾身の作を紹介されていた。記録は來田康男(心の花)が担当。トップは「黒」の歌である。

(花組)

目の奥の黒さを示す硫酸を注ぎし瓶の魚の欠片

森垣 岳 (ヤママユ)

(月組)

形見分けに黒きダイヤル電話機請ふ姉と交はせるあまたの言葉

奥田洋子 (花鏡)

花組の歌は、硫酸≡硫酸アトロピン

(瞳孔調節、消炎、鎮痙剤)と取り、目薬の歌であり、化学物質の海を泳ぐ魚にも掛かりミクロからマクロへと展開する歌である。また、目薬は白目の充血は取るが、黒目の充血は取れず、人間の内面の黒さが取れない事も示す等の、高度で深い読みが提示された。

一方で、「の」の多用が情景を混乱させている。謎が最後まで解決していないのが傷であるとの意見も出された。

月組の歌は、黒き電話は「形見分け」にはあまり嬉しくない。しかし、何故欲しいかは最後まで読めば分かる。上句で謎を造って、下句で謎の解き明かしをする明快な歌であるとの意見が提示された。

それに対し、五句の「あまたの言葉」が具体的である方が、歌の個性が活きたとの意見が出された。

判に当たり、各組に対する聴衆からの拍手の大きさも参考に提示された。

島田氏の講評は、花組の歌の「示す」は終止形か連体形かで読みが変わるが終止と取り、硫酸で魚がバラバラになったと解釈された(筆者注 骨格標本作製で硫酸で肉を溶かす法がある)。

月組の歌は「請ふ」で切れ、「請ふ」のは作者となるが、そうなると、過去形の「交はしし」であろうとした。

判定は、姉と作者をつなぐ黒電話への作者の想い、黒電話の具象、何十年も大切に使った姉の人柄も垣間見える点等を評価し、月組の歌の勝とした。

二番目は「田」の歌である。

(花組)

結社(グループ)	会場	内容	問い合わせ先
潮音神戸歌会	神戸市勤労会館	第1土曜、午後1時	078(441)3740 石橋 妙子
花鏡さぼてん教室	三宮サンケアホーム	第1火曜、午後1時	
花鏡木曜教室		第2木曜、午後1時	
花潮会		第3火曜、午後1時	
KCC舞子短歌教室	KCC舞子(垂水区)	第3水曜、午後1時	078(371)0239 中川 昭
CO・OP文化センター短歌教室	生活文化センター(東灘区)	第2火曜、午後1時	
海市短歌会	神戸市婦人会館(中央区)	第4日曜、午後1時	



左から、月組：小林、新屋、加藤、野田、山田恵子、奥田の各氏

花組の歌は、産業廃棄物による水質や土壌の汚染が影につながっている。その光景を見て月が悲しんでいる。月「はたじろぐ」のは、作者の動揺を月に託している等の意見が提示された。

田に積まるる産業廃棄物 大いなる尾をもつ影に月はたじろぐ
 (月組) 呼び捨てにされた「山田」の「だ」の響き丸まりながら背中に届く
 青田綾子(文学圏)
 山田恵子(塔)

一方、「大いなる」は肯定語で賛同の意味も含むのが気になる等の意見が出た。
 月組の歌は、「だ」で終るのは、裏返しの愛情である。「だ」の濁音に、時間の経過、作者と相手の人間関係も窺われ相聞歌である等の意見が出された。
 一方、山田でなくとも、竹田でも笹田でも作れる等の意見が出された。
 島田氏の講評は、花組の歌は、「大いなる尾を持つ影」が面白く、怪獣に遭遇した驚きがあるが、「たじろぐ」は作者の心情であり、言わずとも良いとした。月組の歌は、乱暴そうで親密に接して貰った喜びが、丸まりながらにながっているとした。
 判定は、花組の歌の「大いなる尾を持つ影」の表現は魅力的であるが、月組の歌の簡潔さ、素直に作者の想いが伝わる点を評価し、月組の歌の勝とした。
 三番目は「池」の歌である。
 (花組) 古池の墨色の魚波を立て緋の桜葉をつかの間覚ます
 真砂晃美(ひめち水甕)
 (月組) 梨食めば喉といふ池めぐりゆき私の身体に潤みゆく水
 野田オリカ(未来)

花組の歌は、「墨色」、「緋」色の色彩感覚が鮮やかである。「墨色の魚」は彼「緋の桜葉」は彼女であり、恋の歌である等の意見が提示された。

一方、「墨色」や「の」の連続に効果がないとの意見が出された。
 月組の歌は、月組より「花組が初句が理屈っぽいと言うが、歌に内容があまり無く、理屈っぽい修辞で魅力を作っている」との意見が出された。
 この時、「我」の表現に関して、タブーである(海市)、OKである(花鏡)、OKだが平仮名を使う(玲瓏)等の議論があり、結社による方針、姿勢の違いも改めて浮き彫りとなった。
 島田氏の講評は、花組の歌は、実景の写生である。色を使わずとも、鯉とか桜葉でも読者に伝わるとした。
 月組の歌は、「瓜はめば…」(万葉集・巻五―八〇二)山上憶良、「雉食へば…」(緑色研究 塚本邦雄)を想起させるが、先行作品と重ねないのが巧みである。語順で、先に池を出してリアリティーを欠いたとした。
 判定は、花組の歌、月組の歌とも景が鮮やかで、持(引き分け)とした。
 四番目は「本」の歌である。
 (花組) 本味噌ならざる味噌の欺瞞問ふ眞蛸の顔が赤く湯氣立つ
 佐藤博之(心の花)
 (月組) 守るべき命抱きしめデモの声濡らせる雨はいよよ本降り
 加藤直美(吾屋水甕)

花組の歌は、「本味噌」は天然醸造だが「味噌」は甘味調味料であり、もつと良いもので調理してよと「蛸」が真

結社(グループ)	会場	内容	問い合わせ先
神戸白珠の会	六甲道勤労市民センター	第2水曜、午後1時	0797(32)8462 東昌子
高嶺(神戸支部)	神戸市婦人会館(中央区)	第3土曜、午後1時	078(927)4439 伊藤敦子
波濤神戸	三好弥寿子宅(長田区)	第4木曜、午後(原則)	078(612)9294 保田ひで
ポトナム短歌会(須磨歌会)	兵庫勤労市民センター(兵庫駅前)	第4日曜、午後1時半	079(557)0679 中西健治
万華鏡	神戸市勤労会館	第4月曜、午後1時半	078(242)1493 黒崎由起子
未来・トアロード歌会	神戸市勤労会館	第1火曜、午後1時	078(792)9057 河村公美
ひだまり歌会	大阪市立総合学習センター	第2火曜、午後1時	0797(84)8881 桂保子



判司 島田幸典氏

つ赤になつて怒っている等の意見が提示された。

一方、初句から三句が「蝟」に掛かり骨無し「蝟」には重荷で、「問ふ」は「問ひ」が良い等の意見が出た(が月組も面白いと評した)。

月組の歌は、安保法成立の歌であろう。「雨」がうまく、逆境を示し、反対してもどうにもならない現状をも示している等の意見が出された。

一方、「守るべき命」の対象が不明瞭。「守る」の表現こそ欺瞞との意見も出た。島田氏の講評は、花組の歌は、両組にメッセージが伝わった良い歌だが、欺瞞とまで言わずとも伝わりとした。

月組の歌は、重い内容の事を二つも詠んでおり、下句を活かして抜けるのが良いとした。

判定は、メッセージ性の強さでは甲乙つけがたく持となった。

五番目は「松」の歌である。

(花組)
すべもなく虫に食われて褐色の松の一叢夕映えて銅

矢野一代(海市)

(月組)
行きつけの「まつ葉」の焼酎も後輩にゆづりていよ退職ちかし
新屋修一(コスモス)

花組の歌は、「松の一叢」が主語で、失われた命を詠んでいるが、赤や紅でもないあかがねの「銅」が当を得ている。環境、自然問題等の社会性にも通じるとの意見が提示された。

一方、良い歌だが、「松」は伝染病で枯れるので描写が不正確との意見も出た(筆者注 松を枯らす害虫もある)。

月組の歌は、悲しいとか寂しいとか言わずに昭和の男の匂いがする。色々な種類の酒があるが、「焼酎」がこの歌を良くしているとの意見が出された。

一方、花組から、歌の良さを認めつつ「いよよ」は上代語で「いよいよ」の方が実感が伝わる。加えて「ゆづりて」の「て」を省けば良くなるとの意見も出された。

島田氏の講評は、花組の歌は、凄惨さの中にも美を求める良い歌だが、褐と銅が対比されるので、褐を省き、銅が映えるよう上句を整理せよとした。

月組の歌は、人好きのする歌で色々な事を整理していく作者の律儀な人柄も滲み出ているとした。

判定は、明快に詠むべき処を簡潔に詠んだ点で、月組の歌の勝とした。

最後は「酒」の歌である。

(花組)
色づいた蝶を飛べなくなるほどに握

小林幹也(玲瓏)

(月組)
酒蒸しの浅利蠶くまぼろしに夜更け目覚めて冷蔵庫見る

花組の歌は、官能的、挑戦的な歌である。「蝶」は甲状腺で、女体と取れば性愛であり、エロスが強いが詩歌に踏み留まっている等の意見が提示された。

一方、上句が難解である。「色づいた蝶」が採りにくいと意見も出された。

月組の歌は、蠶くから活きている「浅利」と取れる。動く「酒蒸しの浅利」と言う現実には無い物に動かされる人間の性が現れて面白い等の意見が出された。

一方「蠶く」をもう少し美味しそうに表現して欲しいとの意見も出された。

島田氏の講評は、花組の歌は「酒」が喉を通る時の感覚を詠んでいる。軽くて華やかな「酒」とすると胃へと放つイメージが分かる。「色づいた」は不要とした。

月組の歌は、「酒蒸しの浅利」が動くのは不気味であるが、歌にした動機が分かりづらいとした。



歌の朗詠 西橋美保氏

結社(グループ)	会場	内容	問い合わせ先
青山短歌グループ	立花公民館(尼崎市)	第2木曜、午後1時	06(6429)5158 たなかみち
林間阪神支社	中央公民館(尼崎市)	第2金曜、午後1時	06(6411)6516 内井 幸子
芦屋水豊短歌会	芦屋市民会館	第2土曜、午後1時半	0797(31)7220 藤井 幸子
	谷崎潤一郎記念館	第4金曜、午後1時半	
新月芦屋支部	西宮北口生活消費センター5F	第3土曜、午後1時	078(733)8569 西村 郁
玲瓏関西歌会	プレラにしのみや(西宮市)	2月6日、7月2日、午後1時	0798(52)7448 小林 幹也
宝塚白珠の会	宝塚東公民館(宝塚市)	第3火曜、午後1時	072(794)0614 星野 敏江



司会進行 尾崎まゆみ氏

判定は、花組の歌の勝とした。花組、一勝。月組、三勝。持、二回。よって今回の歌合せ全体の勝負は、合計して月組の勝とされた。

総評では月組の山田恵子氏(塔)の作品が一位に選ばれた。

島田氏より良い歌作りの講義があった。「頭重脚軽」、経験的に上句で詰め過ぎ、下句で余裕がなくなる例が多いゆえに、重複や余分な事は削り、イメージを簡潔に明快にする。これらは歌合せの講評でも一貫しており、今回は実作の場としても勉強になった。

また、独善的な歌は、読者に伝わらない。読者目線で詠み、読者に参加の余地を与える。

分かりやすい歌Ⅱ良い歌と誤解され勝ちだが、分かりにくくても良い歌がある。ゆえに数学的に四通りの歌が存在する。①分かりやすくて良い歌、②分かりやすくて良くない歌、③分かりにくくて良い歌、④分かりにくくて良くない歌。①と③の実例を挙げる。死にて納まる場所をも用意せるわれになほ大切な世間体あり

①の実例。分かるけどどうまい。軽く詠まれているが、自分の死後の世間体まで気にしていて、人間的にも深い。咳するに遠く旅立つひとの見ゆひとつの咳にひとつ旅びと

竹山広『残響』 渡辺松男『蝶』

③の実例。分からないけど意味不明では無い。己が咳をするたび旅人が飛び出す。旅人が無数にあり、その宿が私という存在である。または、私が無数にいるのかも知れない。三十一文字を謎で埋め尽くすのではなく、リフレイン(繰り返し)を使って意味を簡潔にする等、工夫している(筆者注。謎の作品は歌合せでも何首があったが、その後、作品を良くする上での示唆ともなる)。

読者参加の余地の教えは、作者と読者の作品の共有でもあり、これは、「祭典」冒頭の兵庫県歌人クラブ安藤直彦代表の挨拶にあった『短歌は国民のおもやいのもの(共有財産)』(柳田國男の考察)にも重なり、短歌が何千年も続く壮大な秘密を垣間見た気がした。

最後に兵庫県歌人クラブ顧問の小畑庸子氏(ひめち水甕)より「結社の違いが論争されたがすぐ終わったのが良い」との感想があり、共存共栄、切磋琢磨を続ける我々の明日を確信した。

今回の歌合せは、島田氏の講義、講評に加えて、両組の評の応酬は短歌の作品をより多面的かつ深く創作、鑑賞する力を養うのに、歌びとを始め、聴衆の我々にとつて貴重な場となった。これを糧にさらに作歌に励みたい。

結社(グループ)	会場	内容	問い合わせ先
心の花兵庫歌会	みつなかホール(川西市)	第1土曜、午後2時	072(794)3083 足立 晶子
明石大門歌会	明石市立勤労福祉会館	第1土曜、午後1時	078(781)0846 森嶋 郁子
明石短歌会	明石公園会議室	第1・3木曜、午後1時	078(936)3306 牧野 秀子
水甕明石	人丸堂3階(明石市魚の棚)	第1土曜、午後1時	078(914)0078 向山 明子
東浦短歌会	東浦老人福祉センター(淡路市)	第2木曜、午後1時半	0799(74)2141 片山 田佳子
茅花短歌会	ふれあい交流館(稲美町)	第2水曜、午前9時半	079(492)1766 前田 昭子
東加古川短歌会	加古川総合文化センター(加古川市)	第2金曜、午後1時	079(293)0956 水野 美子
てのひら	NPO法人てのひら(高砂市)	第1土曜、午後	079(442)2476 石原 智秋
かしの木短歌会	加西市コミュニティセンター	第2日曜、午後1時	0790(47)0403 志方 弘子
コスモス加西	中央公民館(加西市)	第2土曜、午後1時	0790(42)0415 藤岡 成子
	アスティア(加西市)	第2金曜、午後1時	
小野短歌会	コミュニティセンターおの(小野市)	第1日曜、午後	0794(62)2846 松尾 鹿次
下東条短歌教室	コミュニティセンター下東条(小野市)	第4日曜、午後	
東条短歌会	東条公民館(加東市)	第2日曜、午後	
美加志保巨勢教室	巨勢教室(加東市東古瀬)	第3日曜、午後	

ふれあいの祭典 兵庫短歌祭

入賞作品評

文部科学大臣賞

種田 淑子 (明石市)

・渡らずの橋といふ名よ古里に戻らぬ人を待つ橋がある

「渡らずの橋」とそう里人に呼ばれ来たつた橋、それは下句から想像すると一度出て行った人は二度と戻ってこないというのか、種々の想像が広がる。「橋」はいつでも待っているかみえて。過疎のすすむ地域社会の相が「橋」という具体を通し見事に結晶している。「古里」とは古典的にみると、「かつてなじみ深く、住んだことのある場所」で「故郷」とは趣をやや異にする。作者の意識の流れをここにみる。

兵庫県知事賞

小川富美子 (高砂市)

・名も顔も知らぬ誰かを見つづける防犯カメラの孤独な時間

「防犯カメラ」といえばかつてはエレベーターやATM等密室的な特定の場所に設置されていた。今では店舗内のみならず街路の至る所で作動して犯罪捜査の決め手を提供する。通常、カメラは友人や家族等親しい人の姿に向けられることが多い。防犯カメラを擬人化して誰とも知れぬ人をただ延々と見続けることの殺伐さを「孤独な時間」と言い切る思い入れが共感を呼ぶ。ただ「時間」との限定には少し違和感がある。

(安藤直彦)

る。永遠に見続けるという表現を取った方がよいように思う。(中島眞喜子) 兵庫県議会議長賞

西田 弘子 (豊岡市)

・出来ごころとはどんなごころか胎内にひそんでゆれるさびしい水母

「出来ごころ」が「どんなごころか」と問われたとき、確かに困る。出来心を笑って許すおちかさが、今の私にはなくなってしまう。その事に突然気づかせた作品である。

胎内にひそみ始めた者の不安定な状況を、揺れている水母で視覚的にイメージさせながら、心の隅に「潜んで揺れながら」ふと気づけば顕在化している「出来ごころ」と対比する。日々の生活の中で時折感じる不安定な感情を、改めて認識させてくれる良い作品である。(竹村公作)



西田弘子氏(左)、高橋久美枝氏(右)

兵庫県教育委員会賞

高橋久美枝 (朝来市)

・春風の尻尾はなかなかつかめない婆の手かわし駆ける三歳

躍動感のある作品。可愛いさかりの孫に振り回されるしあわせにあふれている。風の尾のうたは先蹤もあるが怖いもの知らずの孫の疾走は子守のつらさと喜びでもある。子に尻尾があればとも思い、つかまえようとあせる。川の近くだったり、車の多い道だったり、三歳児の智慧はなかなか。近づくと見せて手をかわすのである。上の句と下の句の取り合わせが絶妙で、空気の良い朝来市のかけがいのない景である。市の活性化が度々新聞記事に出ているが宝物の幼なである。(浮田伸子)

兵庫県芸術文化協会賞

竹川たつる (姫路市)

・山寺より届く鐘六つ独り居の老いたる僧の無事を知らせり

朝、太陽が昇り、夕べには西に傾く。自然の中で暮らしている作者も、ごく当然のように聞いていた山寺の鐘。

一日のお仕事ご苦労さまと聞いていたが、最近独り居の和尚の高齢が気になつている。ひと曰無事にすごされたことに感謝して耳をすませていたら「今日も元気だよ」と和尚が村人に知らせているように思えた。鐘の音とおして人と人のつながりをやさしく捉えていい歌になつている。「鐘六つ」になにか特別なキーワードがあるのか作者に尋ねてみたい。(来田 務)

姫路市長賞

内海 永子 (たつの市)

結社(グループ)	会場	内容	問い合わせ先
白 珠	滝野公民館(加東市)	第2水曜、午前	0795(48)3679 片山 洋子
西 脇 短 歌 会	西脇市民センター	第3水曜	0795(28)3309 藤原 孝雄
コ ス モ ス 葛 の 花	八千代プラザ(多可町八千代区)	第2水曜、午後1時	0795(37)0680 岸本しげ子
姫 路 水 襲 歌 会	姫路市民会館 指導 小畑 庸子	第3土曜、午後1時	079(232)4003 生田よしえ
香 寺 短 歌 会	姫路市香寺公民館	第2水曜、午後1時	
コ ス モ ス 藍 の 会	姫路市民会館	第2土曜、午後1時	079(448)0895 久米川孝子
コ ス モ ス 姫 路	姫路市民会館	第3日曜、午後1時	079(269)0513 飯田 進

・鍵形の銀のペンダント胸におき重中
無防備に少女は眠る
鍵っ子の問題が大きく取り上げられ
たときがあったが、最近はまだ聞か
れなくなつたのは、子供達へのケアが
充実してきたということだろうか。

この作者がこうした問題を直接的に
提起している訳ではないが、当時、鍵を
首に掛けていたイメージが「鍵形（鍵
の形と解釈をした）の銀のペンダント」
に繋がる。高校生は別として少女が車
中で眠り込む姿は珍しい。まして鍵形
のペンダントを胸に置いたまま眠る無
防備な姿は少女の生活環境に秘められ
たドラマを感じさせる。

(伊藤佐重子)



江草義勝氏

姫路市議会議長賞

江草 義勝 (大阪市)

・夕闇に吉備の山山暮れて行き母は一
人の灯を点しおり

吉備の山里の母のくらしを気遣つて
この歌が生まれた。

夕闇に包まれていく山山の様子を読
者に鮮明となるが、「夕闇」に「暮れ
て行き」が重複する語感で気にはなる。
付言すれば「一人の灯を点しおり」
は眼前の実景のフレーズととれる。「点
しむ」ならばストレートに通じてく

る。作者の力量からすれば、それらを
こころえての「点しおり」であろうと
思われる。情感のあふれる佳品にうた
れた。

姫路市教育委員会賞

池本登代子 (神戸市)

・何処に向かつて飛ばせばいいのか紙
ひかうき戦争は嫌だと太太書いて

戦後70年間の宝石のような平安。そ
れを保障してきた憲法9条。今国会の
安保関連法案の審議にその危うさの心
境を吐露された作者。戦争体験者とし
て黙っておれない。その思いが七・八・
六・九・七の37音にこの一首が定型に収
まった歌よりはるかに強い力で読者を
つかむのは、破調をものともしない作
者の強い意志にあることは明らか。6
音の字余りの韻律そのものが、そして
「戦争は嫌だ」の下の句が、作者内部
の熱くせき上げる思いを雄弁に語って
いる。

(島田英樹)

兵庫短歌祭姫路市実行委員会賞

木内美由紀 (川西市)

・黙々と他人丼食みながら「家族にな
ろう」なんて言う君

選出しながらふと与謝野晶子以来の
大型新人類歌人誕生と騒がれた俵万智
の「サラダ記念日」を思いだした。

もう二十数年も経つ。若い作者の知
る筈は無い。口語調で平易に詠みあげ
た何と明い相聞歌であろうことか。

表現に掛け合いの妙の醸し出す関西
人特有の屈託のなさに特徴が有るよう
に思う。「垂流」という指摘が有るかも
知れない。「本歌取」という整備された
歌論も有る。構わず次を指し悔いの

ない道を進まれ、朗報の伝わって来る
のを期待します。

神戸新聞社賞

三津野幸代 (神戸市)

・自転車に下校してゆく少女達明日と
いふ言葉しきり交はして

自転車、下校、明日という言葉がひ
びきあつて、少女達の姿はいかにも健
康で活発そうで、爽やかな風のような
印象を与える。

少女達の後ろに過去はぼつちりと少
なく、未来は多い。「明日」があまりに
も溢れているから、「明日」の持つ意味
も重さも知らない。軽く口にして幸せ
そうだ。「明日」の重さを知っている、
だいぶ草臥れた大人達は少女達をまぶ
しく眺め軽いジェラシーを覚える。そ
んな構図がまざまざと目の前に浮かぶ
歌である。

(益永典子)

兵庫県歌人クラブ賞

新家イサ子 (佐用郡)

・少年の習いたてなる「飛ぶ」の文字
風に逆らい半紙飛び出す

飛という字は書き順からして難しい。
習いたての少年には、その画数の多さ
もあつて半紙に収まらず、それだけに
勢いのある文字となつているのだ。「風
に逆らい」と些か不思議な表現が使わ
れているが、そこが少年の喩とも思わ
れ、一つの物語が生まれた。二度使わ
れている「飛」の文字が、今し大空に
向かつて飛んでゆく。この少年の未来
がそうであるように。

(山中洋子)

兵庫県歌人クラブ賞

小松カツ子 (姫路市)

・黒日傘さしかけてある木のベンチ単

結社(グループ)	会 場	内 容	問い合わせ先
塔 姫 路 歌 会	城南公民館(姫路市)	第2日曜、午後1時	0790(28)0158 稲垣 保子
ポ ト ナ ム 姫 路	姫路市民会館	第3月曜	079(266)3603 糴川 範子
文 学 圏 社	姫路花の北市民広場(姫路市)	月初めの午後	078(961)5676 浮田 伸子
糸 ち う ど 揖 西 歌 会	揖西公民館(たつの市)	第4金曜	079(236)6806 上田 一成
「白圭」龍野歌会	たつの市生きがいセンター	第4月曜、午前10時	0791(63)4734 内海 永子
「白圭」網干歌会	網干図書館(姫路市)	第1土曜、午後1時半	079(273)0428 首藤 幸子
赤 穂 短 歌 の 会	赤穂市民会館	第4土曜、午後1時半	0791(48)0137 尼子 勝義

2015年度 兵庫県歌人クラブ 「兵庫短歌賞」「新人賞」作品募集要項

- 資格** 兵庫県歌人クラブ会員及び県下在住・在勤・在学者・他関係者
- 作品** 未発表短歌20首
- 様式** 1. 作品はA4判400字詰め原稿用紙2枚に浄書、右肩を綴じる
 2. 1枚目の欄外に作品表題と新旧仮名遣い別を記入する
 3. 作品表題・氏名・生年月日・郵便番号・住所・電話番号・所属結社名を記入した表紙をつける
 4. 封筒の表に「兵庫短歌賞応募作品」と朱書きする
- 応募料** 2,000円(作品に同封、切手不可)
- 締切** 平成28年2月10日(消印有効)
- 宛先** 〒666-0261 川辺郡猪名川町松尾台4-4-33
吉野節子方
兵庫県歌人クラブ「兵庫短歌賞」係
- 選考** 兵庫県歌人クラブ兵庫短歌賞選考委員会
- 発表** 会報第195号紙上
- 表彰** 平成28年4月29日 兵庫県歌人クラブ総会・神戸短歌祭会場
県民会館11Fパルテホール

※昨年度より、今までの「新人賞」の呼称を改め、「兵庫短歌賞」とし、その中に「兵庫短歌賞・新人賞・奨励賞」を設け、年度作品によって選考委員会が判断(「該当作無し」の場合もある)することとなっております。

行本は開かれしまま
 単行本を読んでいた人がふと、どこかその辺りに立って行き、ベンチには黒日傘と単行本が残されている。「さしかけてある」は本のためというより、今までさしていた人がそのままの形で置いたものと思う。ちよつとおしゃれな絵のような雰囲気もある。日傘と本とベンチと物だけをうたいながら、人の気配も感じさせ夏の日の静かなひと時を印象的に切り取った。(足立晶子)

姫路歌人クラブ賞
大西 豊子(姫路市)
 ・レジを打つ娘に替わりたるその母の手はかるやかに算盤はじく
 商店の店内であろうか。娘と母の新

旧の道具を使つての仕事振りが、対照的に描写されている。母親の昔とった杵柄とでもいふべき、見事な算盤の技に作者はみとれたのであろう。その音まで聞こえてくるように詠んでいる。場面の切り取り方が良いので読者にも十分に伝わる作品になった。そして何よりも、この情景を見逃さなかつた視点が生きている。(牧野秀子)

姫路歌人クラブ賞
高井 忠明(宝塚市)
 ・植込みの闇がまなこを光らせて猫のかたち走りゆきたり
 時間は夕暮か、或いは家の明かりが植込みを仄かに浮かび上げている夜だろうか。一瞬ふたつの光るものがあり

素早く走り去る。夜よりも濃い闇の色で猫のかたちをしていた。
 斬新な表現で大成功の歌である。黒猫とはいわず、その何倍もいきいきと黒猫の表情や動きのスピードを感じさせる。印象深い作品である。

入選(6名) 片岡依子(養父市)、山田恵子(南あわじ市)、森田哲子(丹波市)、井上澄子(神戸市)、上田一成(姫路市)、藤原町子(美方郡)

佳作(20名) 鈴木裕子(高砂市)、鶴桐江(明石市)、松田和薫(加古郡)、友次洋子(伊丹市)、栗村涼子(神戸市)、竹平よう子(神戸市)、川崎弘子(豊岡市)、伊藤敦子(明石市)、吉永明代(姫路市)、岡田恒子(豊岡市)、大谷忠子(宍粟市)、阿部綾子(たつの市)、桂日呂志(加東市)、柳井豊子(姫路市)、伊藤悦子(加西市)、多田嘉孝(朝来市)、權裕子(宝塚市)、田淵和子(宍粟市)、黒田義子(芦屋市)、西橋美保(姫路市)

「販賣しました」
☆第二回現代短歌社賞受賞
 平成26年10月2日 森垣 岳
 「遣伝子の舟」
☆半どんの会
及川記念文化奨励賞受賞
 平成27年7月19日 楠 誓英

☆県ごとのとり賞受賞
 平成27年10月25日 内海永子

結社(グループ)	会場	内容	問い合わせ先
銀の道短歌会	生野メインホール(朝来市)	第3火曜、午後1時	079(672)2334 中島真喜子
さくら木短歌会	枚田岡会館(朝来市)	第3日曜、午後1時半	
佐用姫短歌会	西山会館(佐用町)	第2火曜、午後1時半	0790(82)3019 衣笠 邦恵

<p>兵庫県歌人クラブ会費納入のお願い 兵庫県歌人クラブの会費は、1年1000円となっています。 振込用紙を同封しております方は、納入よろしくお願ひ致します。 振替 01110-5-6903</p>	<p>生活創造プラザ(神戸クリスタルビル5階)での活動 「広く社会に開かれた会をめざしたい」と生活創造活動グループに登録しています。会員の皆様が歌会やその他の会合で積極的に利用していただきますようお願いいたします。 ご利用ご希望のかたは、森嶋(Tel 078-781-0846)までご連絡ください。</p>
---	--

ジュニア部門入賞入選作品選評

安藤直彦

本年は中学校31校、高校11校、527首の応募であった。全作品を兵庫県歌人クラブの幹事の半数25名で選歌し、審査委員会で更に精査し、入賞作品を決定した。全体的に言葉の使い方の基本的な誤りはほとんどなく、生き生きとした心の働きの定型におさまっていて、これも先生方のご指導の賜物と楽しく読ませていただいた。

兵庫県知事賞

兵庫県立上野ヶ原特別支援学校

高等部二年 仲宗根琉奈

・朝顔のお花をみたいばかりに眠そうな目で早起きしている

この歌は結句「早起きしている」で成り立っている。「早起きして」では「ああそうですか」で終わってしまふ。仲宗根さんは三年連続で入賞、今回は「最高位」となった。巧い。



仲宗根琉奈さん

兵庫県議会議長賞

兵庫県立山崎高等学校

三年 米田 采未

・消しゴムを拾ってあげただけなのにこんなに胸が苦しくなる

さりげない学校生活のなかの「こまがうまく掬いあげられている。上句は他に類例がありそうだが、結句の字足らずによってそれがカバーされているようだ。「苦しくなつて」と比べて。

兵庫県教育委員会賞

佐用町立上野中学校

二年 相開 渚

・愛犬のあまえるようなまなざしに応えられない朝のひととき

朝のあわただしい中での「こまが言葉の選択よろしく、巧く掬い上げられている。「朝のひととき」のおさめ方が平明な調べに乗って光っている。こうしたさりげないことも短歌になるのである。

兵庫県芸術文化協会賞

宍粟市立波賀中学校

三年 井上 萌夏

・貝殻を耳にあてると波の音目を閉じ聴けば海が広がる

作者の居住地は海から遠く離れたところなのだろう。それだけに「海」への思いははるか広がる。貝殻に波の音を聴き海の広がり心寄せるとはま見かけるが、若いころ、この類型はあつていい。

姫路市長賞

姫路市立四郷中学校

二年 堀内 郁華

・ちよつとだけ日焼けした腕眩しくて半歩後ろでそつと盗み見

恋のきざし、真黒に日焼けした腕でなく「ちよつとだけ」としたところにも特別な想いがうかがえる。「半歩後ろ」「そつと盗み見」にもその彼との間柄が知られ、微妙な心動きがよくでている。



堀内郁華さん

姫路市議会議長賞

宍粟市立波賀中学校

三年 中原 真菜

・飼ひ猫の寝顔を見ては考える次はできれば猫になりたい

選考をしていて下句を読みあげた時期せずして大笑いがおこった。それほど面白い歌だ。上句が「猫」を客観視し、また「考える」と自己をもう一人の自分がみつめている所が妙。

姫路市教育委員会賞

兵庫県立多可高等学校

三年 藤井 葉菜

・響いているバツシユの足音ドリブルで弾むボールはシュートの予感

バスケットボールの試合での実感を詠つたものである。四つのカタカナ語の運びがよく、臨場感が出ている。キユッキユッキと走りまわる靴の音が聞こえてくるようだ。

兵庫短歌祭姫路市実行委員会賞

加古川市立陵南中学校

二年 尾形 真歩

・何回も鏡を見てたあの日々はきらきら光る恋をしていた

思春期のころは心身ともに成長変化がめまぐるしい。その時々の一つ一つを噛みしめながら脱皮してゆく。「何回も鏡を見る」具体がいい。「きらきら光る恋」がよくマッチしている。

神戸新聞社賞

加古川市立陵南中学校

二年 宮田 陸

・傷ついたランドセルが語るんだ六年間のいるんなことを

「傷ついたランドセル」の素材がユニーク。「六年間のいるんなこと」は漠々としているが、種々の想像を呼び込む。無駄な言葉がなく平明、簡潔によくまとまっている。

兵庫県歌人クラブ賞

兵庫県立篠山産業高等学校

一年 下田いとみ

・偶然に見かけた君は笑ってて私は少しうれしくなつた

歌で、「君」は多く「私」にとつて特別な人(異性)をさす。ほのかな想いをもちながらそのままになっていた「君」が笑顔で元気そうであつたとい

う、心動きがうまくとらえられている。
兵庫県歌人クラブ賞

加古川市立陵南中学校

二年 山下小友姫

・旅行前荷物と一緒にドキドキもたくさん詰め込みチャックを閉める
・修学旅行の準備をしているのだから一つ一つの携行品を鞆にいれながら形のない心弾みを「ドキドキ」として言い得ている。「チャックを閉める」も生きて働いている。

兵庫県歌人クラブ賞

神戸第一高等学校

三年 富田 健太

・友達の会話の輪の中に入らずに一人でそっとケータイいじる
「輪の中」に入らないのではなく、入れない自分をみつめている。「ケータイ」もしたくてしているのではなく、しかたなく「いじ」っているのだ。



自作の歌を披露する富田健太さん

兵庫県歌人クラブ賞

小野市立小野南中学校

二年 高齊 元希

・せみの声昨日と違う気がつけば空の青さも雲の形も

季節の移り変わり、夏から秋へ、自然の生き物も自然現象も微妙に移るっていく。それを感じ取る感性のよさ。「空の青さも雲の形も」も「も」「も」がよく働いていて心地よい。

姫路歌人クラブ賞

加東市立東条中学校

二年 小池 明里

・コンカール右手をそっと胸におくテノボを刻む心臓の音
・楽器演奏直前の緊張感をうたつて妙「テノボを刻む」がその楽器の調子と心臓の音と重なり、それぞれの言葉が生きて働いている。楽器の具体名をださなかつたのがよい。

姫路歌人クラブ賞

小野市立旭丘中学校

一年 秋田 涼乃

・夕日あび二人寄りそう長い影緑の稲の海に飛び込む
下句「緑の稲の海に飛び込む」がユニーク。夕日を背に受け寄り添った「二人」の影が、ながながと「稲の海」に飛び込むように伸びている場がたちあがり、二人の存在を確かめあっているようだ。

姫路歌人クラブ賞

姫路市立東光中学校

一年 小島 咲

・夏の日のそろそろ帰るといふときの夕暮れの海は少しさみしい
海に遊びに来て、さあ帰ろうかといふときの感じが、なかなか巧くとらえられている。「そろそろ帰るといふときの」は言い得て妙、言えそうでなかなか言えない表現だ。

入選 (9名)

加古川市立陵南中学校

長谷川瑞希

・窓ながめうつる自分の表情をじっと見ていた幼い私

三田市立藍中学校

松山 千夏

・どの草も踏んでも踏んでも起きてくる私もまだまだ踏ん張ってみよう

小野市立旭丘中学校

長谷川麻由

・夏の空力メラ片手に追いかけたいつかはなくなるくじらのかたち

神戸第一高等学校

山本 悠人

・毎日の満員電車の吊革をバーゲンみたいに取り合う乗客

多可町立中町中学校

大西ひかる

・朝露で濡れて輝く朝顔は光の方に身をかけたむける

小野市立小野南中学校

小倉 未有

・空つぽのお弁当箱持ち帰る口ではないえないありがとこの言葉

三木市立三木中学校

平石あかね

・ふりむいて私のねがいとどくかな二歩前あるくあなたの背中

兵庫教育大学附属中学校

近藤 将太

・「もう君の夏は往った」と風は説く「夏でいてくれ」心が叫ぶ

兵庫県立神戸北高等学校

宮川 紫苑

・今何時?あんなにあつた時はもうどこにもないんだ葉月つごもり

佳作 (35名)

姫路市立坊勢中学校

荒木 優月

三木市立三木中学校

福山裕三郎

三木市立三木中学校

坪倉 優衣

姫路市立東光中学校

船曳 崇斗

姫路市立東光中学校

野間穂乃香

兵庫県立篠山産業高等学校

酒井 春香

兵庫県立山崎高等学校

讃岐 有紗

兵庫県立山崎高等学校

三浦 拓也

兵庫県立山崎高等学校

谷口 将崇

兵庫県立山崎高等学校

川西 優奈

兵庫県立山崎高等学校

大裏 理奈

佐用町立上月中旬中学校

大成翔來人

兵庫県立多可高等学校

能瀬 千菜

兵庫教育大学附属中学校

高見 優里

相生市立矢野川中学校

前田 真佑

三木市立緑が丘中学校

鈴木 海由

神戸市立港島中学校

松尾 萌華

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校

南川 真緒

加東市立社中学校

鈴木 詩音

赤穂市立有年中学校

高見 陸太

兵庫県立伊和高等学校

山崎 小雪

姫路市立安室中学校

志水 雄飛

姫路市立林田中学校

洪水 結衣

武庫川大学附属高等学校

富永 紗奈

三木市立星陽中学校

大塚 康祐

姫路市立増井中学校

井上 希美

三木市立自由が丘中学校

實藤 峻介

加古川市立平岡中学校

妻鹿 紗和

神戸市立白川台中学校

中本 康平

兵庫県立川西緑台高等学校

岸本 玖穂

兵庫県立川西緑台高等学校

藤村 朱里

篠山市立世紀中学校

田中 華乃

姫路市立山陽中学校

西村 啓宏

丹波市立和田中学校

神崎 千春

尼崎市立尼崎高等学校

辻本 永遠

(参加校42校 527首)

平成二十六年年度

兵庫短歌賞応募作品品評

はじめに

安藤直彦

応募作品三十七篇を審査委員七名により厳正、真摯に審査させていただきました。入賞作品(兵庫短歌賞・新人賞・奨励賞三篇)は前号に掲載しましたので、選外の三十二篇についてコメントいただき、互いの明日に資したいと思っております。短歌には個人性の面と表裏して共同性の面があります。評し評されながら互いに成長したいと願います。

見えないものを物に託して詠う

石橋 妙子

・大切な眼鏡うしなひ百均のめがねをかけて眼鏡をさがす 上月しげ子
 ・こなからはやさしきひびき遺影にもとイブのケーキをこなからに切る
 「歌日記抄」の中からの二首、日常の些細な出来事を掬いあげて詩にたかめた力量を評価します。一首目の軽み、二首目の何気ない叙情ひびきと、短歌にとり大切な所です。もう一つジャンプして常識を超えて下さい。

安藤三従

・煙吐き鉄橋わたる機関車を見つつ育ちきわたしの原点
 ・機関車の線路は平行 白銀に二人の描きしシユプールもまた

「五十年」一連の巻頭と巻末の二首、金婚を迎えられた作者の感慨がストレー

トに伝わります。しかし二十首の大方は事実即してそのまま詠んでおられる点詩情が薄く報告詠となっています。事実から離れ詩として考えて下さい。

・『志染村だより』読んでよと言はれてもお好み焼きが焦げつきさうで

・遠花火はつかに見ゆる夏の夜は白きうなじを闇に見てゐる 矢野義信

「遠花火」二十首を通して、古い叙情が根底にあり素材をそのまま詠っておられる所、賛否分かれます。素材を確と把握されることで表記の二首となります。

・自宅へと 自転車こぎつ 坂登る 足ふんばり 腰を浮かして

・老人の 楽しみ会を 自治会と 子供もつどい 絆広まる 長谷川喜世子

「仲間と共に」二十首が報告詠の域を出ていないのが問題です。選んだ二首は作者の姿と感慨が直截に手渡されます。事実を作者を通して濾過してください。

己の魂と向き合う姿勢であれ

土居 正

「病魔を越え春よ来い」

棘木正市

「運命の裁きの如し胃カメラを飲む朝雨はしとしとと降る」初・二句新鮮。結局は不安の比喩。但し常套句。個性的把握が欲しい。「飲む」はこの場合、固いものなので「呑む」が妥当か。「妻が病み息子の手作り弁当を独り食う窓に泣きそうな雲」孤独の中に息子への感謝と妻への愛しさあり。

「つむぐ」

岡本絹江

「この年も「まめ」で生きようと故郷の友の便りは代筆の文字」友からの激励の便りが自筆でないことを案ずる。咬舌的語り口がいい。「で」は「に」にした。 「一寸派手思案投首一張羅今年も寝かすか筆筒の底に」リズム感がいい。衣服を通じて歳への無念の情あり。漢字が多すぎる。「投首」は「投げ首」。表題は旧かな。作品は新かなはいただけない。

「節目」

西村節子

「秋彼岸出だす仏具に初孫のしやぶりし跡の残りてありつ」懐かしき情愛に浸るが、やや説明的。「いつものとこで待つてます」これが世のときめきならむ夫のメール」仲良し夫婦の情強し。もう少し定型を大切にしたい。

「峽に三世代を生きたる」

植木 操

「神棚に歳桶まつる手順など夫は教へぬ跡目継ぐ子に」正月行事を継ぐ子に教える大切が滲み出ている。が、報告的。「待ちぬたる金婚の年そこそこに息災にして暮のあきたり」待ちに待った婚五十年、何となく無事に来たことに感謝し、新しい出発を悦ぶ夫婦を彷彿させる。「に」の近い重なりが少し気になるが…全般にもっと己の魂と向き合う姿勢が欲しい。

個性を大切に

小畑 庸子

「末の弟」

石飛俊郎

・時を忘れ人を忘れ老いゆかむ草谷川辺の月見草の花

川べりの月見草が、時をも人をも忘れて老いてゆく人間の姿を見せているとした作者の感性は佳い。二句は「人を忘れて」とリズムを崩さないこと。

・雨の日の葦編みすだれの下を来る中途半端な涼しさの風

三十首までで風を表現して成功した作品。人事詠の感情過多に気をつけたい。
 「切る」 鈴木紀子

・二歩三歩黄色い月に歩み寄る抜いたばかりの蕪を掲げて

黄色い月は、作者の憧憬の対象でもあるのか。下旬のリアルな表現が生きた。

・切りもなく拍手続けるゼンマイ仕掛けブリキのゴリラ 空がきれいだ
 四句の一字あげ「空がきれいだ」の意外性のある結句によって、類型を免れることが出来た。タイトル「切る」にこだわる作品がいくつか見えて惜しい。

「ハモニカの音色」

遠藤瑛子

・ただきの向こうから雲流れきて青い空気にわたしは戸惑う

詩性が感じられ好きな作品。結句の「わたし」は気になった。もし、これを削除した場合、主語は「雲」となり、より秀れた叙景の作品となるであろう。

・ペランダに打ち上げられた貝殻は海の時をまどろんでいる

「ペランダ」の場所設定は不要。貝殻が海の時をまどろむ」はユニーク。

気になる表記の乱れ

中川 昭

嶋澤 隆

「亡妻を偲んで」

・一時の寂靜ここに求めおり古刹の座禪吾が扱ひ所
・妻の遺品整理なしつつまた想う見慣れし服にあの日重ねて
妻を亡くした独居のくらしに深い沈潜がにじむ一連。「寂靜」は重すぎる漢語

「一時」は「ひととき」に。「妻の遺品の」と、助詞「の」を入れる。

「終活のすずめ」

高井忠明

・脱ぎすてた私の過去が吊るされてクローゼットの闇に居並ぶ
・誇らしき胸筋つつみし記憶捨てひたすら車を磨くワイシャツ
退職を迎えた企業戦士の心情が重く刺さる一連。着ることもない背広とぼろぼろになって車を磨くしかないワイシャツの対比が痛々しい。「誇らしく」か。

「朧寿」

図子利明

・杉の木に絡みつきたる山藤の薄紫の花揺れ遊ぶ
・冬籠る漬菜の器に水あがり夜更けの厨におおき匂す
恬淡として伸びやかな九十歳の無我の境地の一連。杉の緑と山藤の紫は命の清明を表わし、漬菜の水の力は命の呼吸そのものである。

「どうしよう」

内藤みさを

・履きてこし長いブーツが病室にいつ踏み出すと突立つてゐる
・もろくの管ひき連れてゆくトイレ親子で息つくその五・六歩を
娘の病状をうたう客観描写が胸を打つ祈りの一連。長いブーツは若き女性の象徴。期待を込めた「突立つてゐる」も「その五・六歩を」も切実で巧み。

全体を通して言えば、旧仮名遣いの誤りが目につく。これは基本的に旧仮名を理解していない証左だから、歌は無理に旧仮名でうたう必要はないだろう。動詞と名詞の送り仮名の違い、怪しい文法も目につく。そうした瑕疵は選考において大きな減点となる。歌作は楽しんでいいが、言葉に敏感たらんことを。

個性いろいろ

小谷 博泰

伊藤絹子

「里神楽」

・静かなる時の間ありて見上ぐれば赤き夕陽を鳩が啄む
・消しゴムに突き当たりたる大き蟻うなづきながらUターンせり
情景を捉える力がしつかりとしていて、感性のよさを思わせる。ただ、表現でうまくいったことが、逆に作品の短歌としての個性を弱めたのではないかと感じられる場合がある。詩歌では、分からせることが良いとは限らない。

「命」

桂日呂志

・ひと切れの西瓜うましと子は逝きぬフォーク一本音なく置きて

・法案の強行採決見てをりぬ老々介護の手を休めぬて
具体的に情景を描いたものに、心を打つものが少なくない。それを見る目に現実把握の鋭敏さがあるからであろう。概念化して分かるように伝えるより、具体的に描写する方が、詩歌では良い作品ができる場合が多い。

池本俊六

「永遠なれと」

・石垣の間に生えし雑木の大きく太く枝を張りきて
・倒産の工場のドアの隙間より排油の痕が黒く覗けり
批判精神にすぐれている。ただ、社会批判をしていると、分からせるために、ついで説明調になりやすいので注意。ここに引いたのは二首とも、言いたいことを言外に置いて感じさせる余情ある作品である。

「雪国に生まれて」

老月良一

・低く垂る雲は心を押し潰す足元を見て一歩一歩と
・シャッター街粉雪ふぶくまた一軒新たに閉まる川口ホール
発想において、現代的なものが目立つ。表現においても軽い口語調のものに、「紅白を見つつ粉末緑茶飲む聖子の服はなせか白色」など魅力的なものがあるが、それを個人的な文体として整えるまでには、もうひと押しか。

丁寧な描写が生み出す詩情

小林 幹也

松田辰子

「北斎の波」

・萩焼の茶碗に両の手温めつつ熱き生姜湯ゆるゆる啜る
・引きぬきてそと置きたる聖護院大根亀裂す小さき音して
生活のなかの何気ない行為を丁寧に描いた歌に、しみじみとしたぬくもりと詩情が宿っている。また、ちよつとした小さな音に耳ざとく気付いている歌も魅力である。危なげのない、地に足がついた表現でまとめられていた。

「余韻」

大木津多代

・蕎麦の白稲の黄色に染まる地よ信濃に秋はかけ足で来る
・ペンションの定期便届く封切れば白馬の空気ラベンダー香る
これらの歌は、信州の特徴と雰囲気うまく表現していて、注目した。風情があり、のびやかさがあり、清涼感にあふれている。もう少しこういう歌が見たかった。

「遊歩」

白井てる子

・馬鈴薯は土持上げて芽ぶき居り其の葉は日毎緑の園に
・若くしてあの世の人となり給ふ師の墓土にもつつじ咲けるや
自然の草花を愛し、そのなかで生きること喜びとする作者の姿が、歌から浮かび上がってくる。しみじみとした風情が感じられる。まさに自然のなかに「遊歩」する歌である。その歩み方がやや単調になる部分が気になった。

「具体」を活かし、一語一句の精確な表現に留意を

安藤 直彦

「光のAURA」

玉川裕子

A 苦しさをゆるめて珈琲の花が咲く白より白き色のあるよう
B 清らかな光のAURA身体に生のきらめき享受すること

玉川さんの歌は、対象を感覚把握して知的に抽象化、観念化した調べに乗せるように作られている。A歌の「珈琲の花」の「白」のよう具体を効かし、歌がある達成に至る場合と、B歌のよう具体を伴わない場合で表層をなぞるようになる場合がある。全体的に知的処理の傾向を克服したい。

「美文字」

塩見俊郎

A はがき裏の三十一文字を美文字へと願いを託しポストに隠す
B 運転中微かな音が気にかかる枯れ葉紛れて擦れる微音

A歌、作品化への志向は好いが、「美文字」は今一つ熟さない表現だ。なぜ「隠す」のか、今一つ分らない。B歌、いい場面を掬いあげているが、「紛れて」がどうか。一連中、「舌鼓打つ」「愛妻弁当」「身体ぽかぽか」など通俗的な表現が散見されるところは改めたい。

「落葉道」

菅原艶子

A 枯落葉踏みゆく道のひとところ湧き水ありて靴の湿りぬ
B 煙ぶりを続けてみたる枯落葉突如ふん切りつきて燃え立つ

一連、囁目への自然体の詠風で、それだけに部分的な表現の瑕疵も立ちやすい。A歌、いい感じだがやや既視感があり、自然体の中にもめりはりのほしいところ。B歌、いいところを掬っているが「ふん切りつきて」が説明っぽい。一連、一語一句の表現の斡旋によって、作品力がさらに増す余地がある。

比喩の力と、思いの強さ

尾崎 まゆみ

・川柳の一句に連想はてしなくカップラーメン伸びてしまいいぬ

武富純一

・いま蹴りし小石が実は女神かもしれないが溝に消えたり

「みんな生き物」の一連は完成度が高い。日常の何気ないところに女神をみつけるようなところが最も魅力的。川柳の一句とカップラーメンの配置もたのしい。過去の記憶を織り交ぜながら、人生の味わいが出ているのが魅力。ただ、「生き物は死ぬからなあ」には、主題を見せすぎた感じがある。

・鳥放つ仕草のように餅を撒きしばらく両手ひろげる人よ

小林まや

・窓ガラス越しの冬日のあたたかさ閉じたまぶたの内も明るむ

「冬日」は、まさに冬の日常。「鳥を放つ仕草のように餅を撒き」という素晴らしい比喩を生む感覚の鋭さが光る。その観察力と、描写力によって「窓ガラス

ス越しの冬日」の温かさもしっかりと伝わる。真中で愛宕神社の戎祭りからアレルギーの柴犬の話題へと変わり、別々の連作を二つ繋いだように見えるところが惜しい。

・わたくしがわたしの中から拡がって宇宙となった 嗚呼まう嫌だ 来田康男
・紅白で唯一人バック宙を演じたる藤本美月よ君は正しい

「近代的自我が強いですけど、それが何か？」まず題名が個性的。旧かなくかいを使いこなし、宇宙からアイドルルまでを網羅する博学。自我をテーマに繰り上げられる作品に込められたエネルギーは応募作の中でも突出していた。そのエネルギーを保ちつつ、トーンを抑えると、より迫力ある一連となったのではないかと、と思う。

短歌は一生

田岡 弘子

「淡き日のいろ」

福山裕恵

・今日を乗る「軽」のハンドルからやかに風のロンドに誘われゆく
・一間のみ灯して足りる夜の冷えをくるむシヨールの淡き日のいろ

センスの良い抒情の通底する一連であり、「風のロンド」の洋、「淡き日のいろ」の和、など着想も豊かである。他に「身に重き装具まとい少年は老いの体験弾みつつする」に注目。確かな把握で歌域の広がり期待できよう。

「深層心理」

岸本万由美

・点滴のかすかなしづく光りつつひとつ落ちたるのちの静けさ
・鍵盤にさざ波立つる指先に波音高くしてホール静まる

点滴の歌は類型がありそうだが、事象のみでなく、本質を探ろうとする作歌姿勢を評価する。盤面を海に見立てた作は情景を彷彿させる。但し、歌詞に、誤字や新旧かな遣いの混同があった。表記は基本、まず留意して頂きたい。

「母」

河合弘美

・夜なべして母縫いぐれし人形のきものは枇杷色脳裏に残る
・一日をたんすの前に陣取って何を守るか九十の母

枇杷色に託された切ない追想と、九十歳の今の現実。母への深い思い入れは伝わり共感も得られよう。後半は自分のことや娘のことなど詠んでおり、題の「母」は一考した方がいい。再度の挑戦に向け、多読多作をお薦めする。

「軍国少女より七十余年」

奥田光子

・防空壕より出てB29の銀翼を美しとみし軍国少女
・百歳をめざして生きよといふ賀状漸う卒寿になつたといふのに

ドラマのようにも思える人生体験を素朴に詠んでいるのだが、激動の時代を生きた、七十余年という数字の重さ。健気に乗り越えられた作者に敬意を表し、今となつては貴重な体験を歌に残しつつ、百歳をめざしてほしいものである。

我が師を偲ぶ

木山正規さん



本年四月六日に、赤穂短歌の会代表木山正規氏が永眠されました。

木山氏は、大正十四年赤穂市生まれ、兵庫師範学校の学生頃からアララギの柴谷武之祐に師事し短歌を学ば

ました。そして、昭和三十六年に公民館短歌講座を始められ、同時に会員の短歌作品を掲載する「赤穂短歌」を発行されました。その後、誌名は「とべら」と変わり今日に至っています。

その間木山氏は、中学校長、赤穂市教育長、兵庫県剣道連盟会長、赤穂市文化会館長等の要職を歴任されました。

私は三十歳になった頃から木山氏に直接、短歌をはじめ教育論・授業論などをお教えいただく機会に恵まれました。短歌について、私が最初

追悼

『異客』の歌人

沢田英史さん



平成九年、沢田氏は第四十三回角川短歌賞を受賞した。その後の活躍は素晴らしかった。歌集『異客』、『沢田英史歌集』、『さんさしおん』を上梓した。誰もみぬところへ不意に降

りてきて人間みたいな顔をしてゐた

私はこの歌を沢田氏が自己の存在感を示した歌と思う。

私が心配したのは沢田氏の健康であった。平成十年、ホルモン欠損。その後腎不全となり、翌年、人工透析を始め

た。さらに脳出血、骨折など次々と病魔が襲いかかった。沢田氏は闘病しながら歌を詠み続けたのである。

私が久しぶりに出合ったのは平成二十一年十月、ポトナムの「須磨歌会」である。歌会での作品批評は的確であり

に指導していただいたことは、「作者の影がさしている歌」作者が歌わずにおれなかつた思い」を詠む、ということでした。またある時、斎藤茂吉にとつての最上川のように、君は千種川をテーマに詠み続けなさい」と言われま

した。私が、自作の中に千種川の朝霧を詠み、川面の光を詠み、白鷺を詠むのは、木山氏のこの言葉が常に念頭にあるからです。木山氏への深い敬意と感謝の気持ちで一杯です。心よりご冥福をお祈りいたします。

足立勝歳

丁寧であった。指導者としても第一級の人であった。

平成二十四年には故郷、生野町に住民達によつて歌碑が建立された。

・あがさとは はるははなさき 夏しげり あきはもみぢに 冬はゆきつむ

叙景にも抒情にも優れていた。これからの人であり円熟した短歌を期待していた。飄々とした風貌、誠実な人柄であった。残念である。

平成二十七年九月十三日没。享年六十五歳。 足立勝歳

地区通信

【阪神】

5月16日、尼崎歌人クラブは尼崎市中小企業センターにて総会及び講演会を開催。「河野裕子の不思議の歌」と題して永田淳氏が講演。歌野昭子、兔田孝子、佐々木春美各氏ら45名出席。▼9月27日、チサンホテル神戸にてたなかみち歌集『具体』を語る会を開催。大原葉子、楠田立身、土居正、安藤直彦、野瀬昭二、藤井幸子、上田一成、田岡弘子、中川昭、小谷博泰、南輝子、黒崎由起子各氏ら44名出席。(たなかみち)

【神戸】

5月11日、ANAクラウンプラザ神戸にて薫風創立60周年記念大会開催。▼7月24日、花鏡神戸港湾クルーズ吟行歌会開催。参加者30名。▼9月25日、パレスホテル東京にて潮音創刊百周年記念祝賀会開催。300余名出席(神戸より16名参加)。▼10月28日、文学圏は姫路夢前町を巡る吟行会。参加者18名。▼11月23日、東京中野サンプラザにて日本短歌雑誌連盟秋季大会。潮音百周年表彰。三津野幸代氏出席。(黒崎由起子)

【明石】

5月1日、明石ペンクラブ(代表野瀬昭二氏)会報「明石大門だより」135号発

行。▼5月18日、明石市柿本神社にて第154回柿本神社春季献詠祭を開催。選者楠田立身氏。▼6月27日、明石勤労福祉会館にて第36回明石ペンクラブ総会と「明石大門」35号発刊を祝う会開催。明石市長泉房穂氏(ペンクラブ会員)他出席者17名。「明石大門」第35号は特集「続々万葉歌碑をめぐる」。野瀬昭二、伊藤敦子各氏が明石の歌碑を訪ねて記事を担当。▼9月1日、明石ペンクラブ会報「明石大門だより」136号を発行。(伊藤敦子)

【姫路】

6月7日、姫路市民会館にて平成27年度姫路歌人クラブ総会及び短歌大会開催。浮田伸子氏は『生を写す』川島喜代詩のうた」と題し講演。出詠243首。市長賞新屋修一氏。水野美子顧問他100余名出席。▼7月14日、まねき会館にて理事研修会開催。作品検討。小畑庸子、神保原廣己、青田綾子各氏他19名出席。▼11月8日、姫路じばさんびるにて落合けい子歌集『赫き花』批評会。パネラー大森静佳、香川ヒサ、栗木京子、松村正直各氏、出席者78名。(山田 文)

【東播】

6月16日、21日までBANBANテレビ東播磨ふれあいネットに茅花短歌会が放

2015年度第2回幹事会議

10月16日(金)13:00～ 兵庫勤労市民センターにて。出席幹事35名。

兵庫短歌祭の審議の議長に三津野幸代、小林幹也各氏

◇ふれあいの祭典兵庫短歌祭実行委員会

は川兵庫県芸術文化協会理事、福永姫路市観光交流局係長、兵庫県歌人クラブ幹事35名出席。

・2015年度ふれあいの祭典－兵庫短歌祭作品審査

一般部門(応募総数387首)、ジュニア部門(42校、527首)の入賞者決定。

◇幹事会

・兵庫短歌祭 11月14日(土)13:00～姫路キャスパホール

実施要領検討 式次第・主催者等挨拶・表彰式・選考経過報告

作品講評(高井、内海、足立勝歳、藤本各氏)ジュニア全(中川氏)

・結社対抗歌合せ(担当 小林幹也) 幹事会后打合せ実施

題 「黒」「田」「池」「本」「松」「酒」代々の姫路城主の苗字から

・当日の役割分担・準備等について

・年会費について検討

長年1000円のままであったが諸々の事情から2000円にとの代表提案。審議の結果同意多数。総会に。

・伝統文化体験教室 平成28年3月5日(土)、6日(日) 於 県公館

・歌人クラブ主催「歌集批評会」第6回を検討中

・平成28年度兵庫短歌祭 開催地神戸市の予定。

映される。▼7月8～31日、稲美町ふれあい交流館にて会員全員の短冊展覧。▼9月16日、稲美町立天満小学校6年生の短歌指導に前田昭子、松田和薫、末澤千世子、高田道夫、中川志恵乃、山崎弘美各氏の6名が参加。▼10月14日、松田和薫氏は万葉の森の会主催の万葉講座に「印南野の歴史と文化について」を講演。(前田昭子)

7名入賞。選歌と講評は楠田立身氏。▼9月13日、日本歌人クラブ近畿大会にて阿部綾子氏(水巻)は秀作賞。▼9月19日、日本歌人クラブ主催第36回全日本短歌大会にて吉永明代氏(水巻)秀作賞。▼9月23日、第18回小浜市山川登美子記念短歌大会にて吉永明代氏(水巻)は優秀賞。▼10月18日、第133回明治神宮献詠短歌大会にて吉永明代氏(水巻)は佳作入選。▼10月25日、第33回子規顕彰全国短歌大会にて吉永明代氏(水巻)入選。▼11月20日、香寺短歌会は年刊歌集『石路』第五集(創刊五十五周年記念号)を発行。(生田よしえ)

小野市詩歌文学賞・第26回上田三四二記念小野市短歌フォーラム開催。詩歌文学賞坂井修一氏(短歌部門)。応募数一般の部1319首、学生の部6152首。入選者一般の部最優秀賞一席岩本幸久氏(広島市)、学生の部最優秀堀内華美さん(加東市滝野東小6年)他2名。出席者小野市長蓬萊務、選者馬場あき子、永田和宏、宇多喜代子氏等401名。▼6月28日、市民会館加西コミュニティセンターにて第58回北播短歌大会開催。応募数一般の部250首、学生の部1394首。入選者特選一席吉田良子氏(小野市)、学生の部入選山本壮馬さん(下里小5年)他14名。出席者加西市長西村和平氏他150名。▼

7月吉日、滝野短歌教室は歌集「鬮龍」第4集を発行。出詠者、代表長谷川純子氏等15名。▼9月12日、平成27年度小野市文芸大会短歌の部をコミセンおのにて開催。応募数73首。市長賞三村時枝氏。出席者30名。▼10月25日、西脇市総合市民センターにて第59回西脇市短歌大会開催。一般の部152首、小中学生の部5百余首。表彰式後応募作品批評会。選者評者安藤直彦氏。特選一席小谷由美子。藤原孝雄、藤中光代、藤本勝子、杉岡静依各氏他26名参加。(松尾鹿次)

10月25日、たつの市新宮ふれあい福祉会館にて西播磨短歌祭開催。応募数158首。学生の部537首。知事賞田淵好子氏。学生の部県民局長賞原田暁さん。上田一成委員長ら6名の実行委員が選歌及び講評。出席者80名。(安藤直彦)

【中播】4月23日、神戸町神河シニアカレッジ教養講座短歌の部講師に小畑庸子氏。▼5月12～13日、水巻姫路支社は水巻全国大会(ホテルアソシア静岡)に小畑庸子氏他7名出席。▼8月1日、福崎町文化センターにて第30回山桃忌奉賛短歌祭開催。内山嗣隆氏他

【北播】6月6日、小野市うるおい交流館エクラにて第7回

【西播】5月、上郡町高齢者大学短歌講座講師に内海永子氏就任。▼9月26日、西山会館にて佐用郡秋季短歌大会開催。秋季大会賞尾上節子氏。佐用町長、議会議長、教育長、文化協会長、文化の会会長、安藤直彦、新家イサ子、菅原艶子、船引貴明各氏他32名参加。▼

【淡路】7月12日、洲本図書館にて第34回全淡路短歌祭開催。一般68首、ジュニア77首。淡路歌人クラブ互選一席川村まもる氏。淡路文化団体連絡協議会長賞向井千鶴氏。同日、中野昭子氏による短歌教室「作るたのしみ」。主催6団体、後援1団体。(来田務)

【但馬】10月29～30日、「みなと悠悠」にて但丹歌人会「秋の大会」開催。講師尾形真氏。▼11月8日、朝来市大蔵市民会館竹柏会「心の花」主催「じろはつたんの里歌会」開催。▼11月21日、豊岡市民プラザにて「但馬文学のつどい」開催。(足立勝歳)

☆新年懇親会のご案内☆
日時 平成28年1月10日(日) 11:00～14:00
場所 神戸三宮「東急イン(R E I ホテル)」(神戸市勤労会館横隣り)

水巻姫路
隔月刊「ひめぢ水巻」編集室
編集委員 生田よしえ 小松カツ子 藤本 則子 楊井佳子
会計 安田 玲子
〒679-2131 姫路市香寺町犬飼366
☎079-232-2380 小畑 庸子方

「第5回歌集批評会」記

南 輝子

平成27年7月18日

(於) 兵庫勤労市民センター
台風11号の影響で交通機関が大混乱したにもかかわらず出席者54名の熱気あふれる会となった。今回は小松カツ子歌集『起伏の彼方』と藤本朋世歌集『座標』。ペテラン女性歌人と気鋭の男性歌人の異質な2歌集に多角的に迫る試みである。レポーターは黒崎由起子氏、森垣岳氏。司会は小林幹也氏。

まず『起伏の彼方』。森垣氏は自らの体験と重ねあわせて自然の移ろいの豊かな描写を評価する。その中に死にかかわる歌が詠みこまれていて効果的なアクセントとなっている。大きなものから小さいものへ視点が移る歌は映像の動きとして美しく面白い。反面ドラマを人間を強く感じる歌が少ない。ありふれた鴉がモチーフながら色の扱いが鋭くインパクトのある一首、

2016年度神戸短歌祭のお知らせ

日時 2016年4月29日(祝日)
13:00~16:30
場所 兵庫県民会館11F
パルテホール
内容 *「兵庫短歌賞」表彰式
選考経過報告
*総会
*催し(未定)

・紺碧の深き空より降りきたるからす
一羽が瞬膜を閉じ
森垣、黒崎氏が体験の有無にかかわらず共に選んだ一首、
・ひとつ身を守るテントに魚を売る若きをみなのおやはらかき声
「若きをみな」の表現に関して会場からも意見続出。古典と現代の感覚の差異にも議論が及んだ。



藤本氏(左)、小松氏(右)

次に『座標』。3部構成を黒崎氏は親しみやすい地から独自の花へ、幻想的宗教的空へ
と詩的世界を
読み解く。
自然、命への
敬虔な内省の
念。眼にみえないものを言葉によって形
象化しようとする。
永遠性を強く求める姿勢は強み
ではあるが苦しみでもあろう。
・蒼天よりそぞ音なき音ありて身の
うちびびかふいつぼんの弦

森垣氏は言葉の選択を装飾的な非現実的印象としてとらえつつ、眼の歌に注目。表紙絵も眼球のようで美しい。また幻想性だけでなく「術後」の作品にみられる男性の体力的強靱さも見逃せない。
・もの思へばおのづと眼球うごくらむ
眠りに入りゆく独りのときも
小林氏の問いかけ掘りさげにより活発な議論が生まれ読みが深まり充実した。詠みと読みの大切さを再確認できた。

受贈歌集・歌書(兵庫県内分)

☆『赫き花』 平成26年11月 現代短歌社
落合けい子
月の夜の岸辺に立ちて母さんと引き
合ふ夜ふけ花粉のふぶく

☆『座標』 3月 Vine(ヴァイン)
藤本朋世
あなたなる水引草のあなたなる秋天
ふかく風かへりゆく

☆『空の襲』 5月 Vine(ヴァイン)
藤本美知子
大空の何処か水のおふれいて春の日
なかを水の音する

☆『具体』 4月 KADOKAWA
たなかみち
熟れすぎてどうしやうもなきマンゴ
ーに背骨のごとき種のあること

☆『起伏の彼方』 4月 KADOKAWA
小松カツ子
くれなゐの一輛電車が冬野ゆく喪服
のをとこをみな眠らせ

☆『合同歌集』『とるふいん』第15号
4月 どんふいん短歌同好会
父母とおさなき兄とわれがいる須磨
の浜辺に昼顔の咲き

☆『明石大門』 明石ペンクラブ作品集35
小松美枝
廃山の一輛電車に從きゆきしひと日
より経 七十年まり

☆『ともしび』 明石短歌会作品集6月
野瀬昭二
幼子のいつしんに吹くシヤボン玉ば
びぶべほ、ぼぼ青空へ飛ば

☆『昼のコンハズク』 6月 牧野秀子
小谷博泰
いりの舎

お守りを売りいる顔よき巫女さんの
客こぬときも呼び込みはせず
☆『雨はときどきやさしくあらず』
藤岡成子 8月 本阿弥書店
ひそと咲くあかねすみれを叩く雨、
雨はときどきやさしくあらず

☆『尼崎歌人クラブ』『終刊特集』
8月 佐々木春美方尼崎歌人クラブ
上りくる十六夜の月をシーソーに乗
せゆつくりと足は地を蹴る

☆『天空の地図』 10月 佐々木春美
桂 保子
あなた居ないこの世の縁にむらさ
きのムスカリ咲けり復た春が来て

☆『廣葉』 廣葉短歌会 西海隆子
☆『ふれあい』自選歌集 山の街短歌会

受贈歌誌・会報等

印南野文華・海市・花鏡・薫風・幻桃・コスモス
姫路・白珠・象・丹生・但丹歌人・茅花・津布良・
童嶺・鳶が城便り・とべら・波濤神戸・白圭・ひめ
ち水囊・文学園・夢・糸ちうど・旅笛・林間・礫・六
甲・川柳ふあうすと・尼崎歌人クラブ会報・大阪
歌人クラブ会報・大分県歌人クラブ会報・熊本
県歌人協会会報・短歌堺会報・長野県歌人連盟
会報・西宮歌人協会会報・大和歌人・京都歌人
協会会報・和歌山県歌人クラブ会報・埼玉歌人・
姫路歌人クラブ会報・日本歌人クラブ 風・梧葉

◇余滴◇
多くの方々の、お力添え感謝してい
ます。
(森嶋郁子)